

母校である高等学校に国語科で 3 週間の実習を行った。中・高共に複数のコースで分けられており、高校には 4 つのコースが存在する。偏差値順に並べると①自力で国公立大進学を目指すコース、②英語に特化しており留学が必須なコース、③大学と連携しており推薦入試を中心とした有名私立大学への進学を目指すコース、④私立大学や専門学校への進学を目指すコースがあり、私は高校 1 年生の中でもホームルームでは①のコース、授業では③のコースを担当した。新型コロナウイルスの流行によって急遽実習の 1 週目がオンライン授業に変更されたことや、文化祭が延期されるなどイレギュラー続きの実習であったが 3 週間という短い期間でも様々な経験をさせて頂いた。本レポートでは、実習中でも印象的であった(1)オンライン授業の現状について、(2)授業についてまとめていく。

(1)オンライン授業の現状について

1 週目は、オンライン授業の見学を中心に実習を行った。新型コロナウイルスの流行により私が在籍していた 3 年前とは大きく異なり、生徒は 1 人につき 1 台タブレットを持ち、Google meet や classroom を活用して授業を受けていた。しかし機械の不備等で授業が中断されることも多く、現状ではオンライン授業によって対面の授業と同じ質の授業を行うことは難しいのではないかと感じた。少しでも生徒に良い学びを提供するために先生方はオンライン授業のための講習なども受けていると伺ったが、あくまで先生方の自主性に任されている部分も大きく、就業時間外で時間をかけて会得したという話も聞いた。コロナ禍の中、オンライン授業の普及が求められているが、「ICT を使うことが目的になるのではなく一つの教具として活用し、生徒が実践的に学ぶことを可能にする授業」を行うためには先生方の自主性に任せるだけでなく、学校を超えて社会全体で今後の教育の在り方について議論し、外部の企業が補助する、授業以外の業務を見直し無駄を省くなどの従来の業務に対する改善も同時に行っていく必要があるのではないかと考えた。

(2)授業について

2 週目からは、対面授業が再開し私も 3 クラス分の現代文（計 14 時間）を担当した。実習が始まる 2 か月前頃から指導教官と複数回打ち合わせし、当初予定していた 6 回分の授業の指導案と授業で使用するスライドを作成してから実習に臨んだ。いざ授業が始まると事前にしっかりと準備をしていたことで、放課後や帰宅後の時間をより良い授業へと改善・練習するための時間に充てることができ、授業をする際の自信に繋げることが出来た。しかし指導案が出来ていたとしても、いざ生徒を目の前にして授業を始めると予定通りにいくことは殆どなく、私ばかりが話していて生徒を置き去りにしてしまう、丁寧に説明しす

ぎるせいで分かっている生徒にとってつまらない授業をしてしまうなど、授業のスピード感や難易度を決めることが難しかった。また、まず生徒に関心を抱かせ授業に参加させることが必要である点に大学で行ってきた模擬授業との違いを感じた。指導教官や担任の先生方に普段どのように生徒と向き合っているのかを伺い、授業中も生徒に沢山問いかけることで目の前にいる生徒と一緒に授業を作っていくことを意識した。生徒にとって身近な具体例を挙げることや、ヒントを上手く教えて答えを導き出していくなど生徒が授業に楽しく参加し学ぶことが出来る授業を目指して模索し続けた。授業見学に来てくださった先生方の講評も反映させ常に授業をアップデートしようと取り組んだ結果、少しずつではあるがそれぞれのクラスの状況に合わせた授業に臨機応変に対応できるようになった。授業の最後には生徒から「具体例や写真を使って授業をしてくれたので、分かりやすかった」「書く時間と考える時間を分けてくれたので、授業にメリハリがあり集中して授業に参加することが出来た」という声を貰うことが出来た。

実習では上手くいくことの方が少なく、毎日自分の力の無さを実感し落ち込むことばかりであった。しかし、その中でも生徒との関わりや高校時代にお世話になった恩師からの励ましの言葉で心折れることなく、前向きに挑戦し続けることが出来た。もっと生徒と授業外でも積極的に関わることが出来たら良かったという後悔は残るが、真摯に生徒と自分自身に向き合うことが出来た3週間であった。